

社会科学学習指導案

30年10月31日6校時（小中野公民館）
八戸市立小中野小学校3年1組（40名）
指導者 教諭 小田 洋子

1 小単元名「お店ではたらく人」

2 小単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領第3学年の指導事項において下記の内容と関わっている。

内容 (2) 地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。
ア 地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること。
イ 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などのかかわり

これらを受け、自分たちの地域の人々の販売に関する仕事を上げたものである。買い物調べや見学などの活動をきっかけに、地域には販売に関する仕事があり、自分たちの生活を支えていることや、これらの仕事に見られる特色、他地域との関わりを、人と物の両面から理解させる。それとともに、販売の仕事に携わる人々の工夫や自分たちの生活との関わりを考えることができるようにすることをねらいとしている。

本校の学区周辺には、スーパーマーケットやコンビニエンスストアが多数存在する。それぞれの店に特徴があり、施設・設備や商品によって消費者が店を選択している。商品の種類や品質、価格に関する消費者の多様な願いとそれに応えようとする販売者の工夫と努力を、それぞれの立場になって考えさせたい。

(2) 児童観

本学級は昨年まで2クラスだった学級が1クラスになったもので、40名で生活して7ヶ月になろうとしている。アンケートによると、ほとんどの児童がふだん、家の人と一緒にスーパーへ行っていること答えたが、その中の半数は、親と離れておやつコーナーや自分の好きなものを見ていることが分かった。また、家の人がどういう品物を選んでいるか、11名が分からないと答えた。このことから、消費者としての意識・関心が薄いことが分かる。

おやつをどこで買うか聞いてみたところ、学区にあるスーパーマーケットが断然多かった。そこで、よく食べる野菜や肉などの食料品を家の人はどこで買っているか調べさせたら、やはり学区にあるスーパーマーケットの名前が挙がった。小中野学区にスーパーマーケットは数件あるものの、1つのスーパーマーケットに偏るわけを聞いてみると、大きくて何でもあるから、品物がたくさんあるから、1カ所で、何でも揃うからなどの便利さを答えた。スーパーマーケットの便利さを大まかには捉えているようである。しかし、家の人のお買い物に付いて行く程度で、販売者側の努力や工夫までは捉えてはいないので、スーパー見学が考えるよい機会になるであろう。単に「行けばすきな物が並んでいる場所」から「自分と商品との結びつきを実感できる場所」「生活を支えている場所」へ意識が変わり、買う側でしかなかった児童が、販売者側の考えにも、初めてふれることができるようになる。

(3) 指導観

児童は買い物調べから学習を始め、スーパーマーケットを見学させてもらい、たくさんの人が働いていて、お客さんによりよい商品を提供するために工夫していることをまとめてきている。そこで本時では、児童がまだ気付いていない「レジ横の商品の陳列」という視点を与え、何のためにしていることか考えさせる。商品はコーナー別に分かりやすく並べられているのに、わざわざレジ横にまで商品を置く理由を考えさせ、消費者側にも販売者側にもよいことであることに気付かせたい。そうすることで、販売者側のさらなる努力や工夫に迫ることができると思われる。

レジ横商品には、金額がさほど高くない物、大きさは小さい物、多めにあっても困らない物などが多い。そういう商品の特徴をおさえることで、家の人に気持ちになって考えることができるのではないだろうか。40人と人数が多いので、今回は消費者側と販売者側の2つに分かれて理由を考えさせる。お互いの意見を聞き合うことで両者の思いや願いに気付くであろう。グループで話し合う活動を取り入れることで、発表が苦手な児童も話しやすくなると考える。

3 校内研究との関わり

研究主題「自分の思いや考えをもち、進んで表現する子どもの育成」

～主体的・対話的で深い学びの視点から～

仮説2 ペアやグループ学習において、意図的・計画的な言語活動を取り入れることにより、学習の定着がより図られるであろう。

レジ横にもガム商品を置くこと理由をグループで話し合い、消費者側、販売者側、それぞれの理由を学級全体ですらに話し合うことで、いろいろな考えが出され、考えが深められると考える。

4 小単元の目標

地域には販売に携わる仕事があり、自分たちの生活を支えていることや、これらの仕事に見られる特色、他地域などとの関わりを理解するとともに、販売の仕事と自分たちの生活との関わりを考え、調べたことを適切に表現する。

5 小単元の評価規準

< 関心・意欲・態度 >

- ・地域の人々の販売の仕事の様子に関心をもち、意欲的に調べている。
- ・地域の人々の販売の仕事と自分たちの生活との関わりを考えようとしている。

< 社会的な思考・判断・表現 >

- ・地域の人々の販売の仕事の様子について、学習問題や予想、学習計画を考え、表現している。
- ・地域の人々の販売の様子を自分たちの生活と関連づけて考え、適切に表現している。

< 観察・資料活用の技能 >

- ・観点にもとづいて見学したり資料を活用したりして、地域の人々の販売の仕事の様子について必要な情報を集め、読み取っている。
- ・調べたことを表などにまとめている。

< 社会的事象についての知識・理解 >

- ・地域には販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていることを理解している。
- ・地域の人々の販売に見られる仕事の特色や国内の他地域などとの関わりを理解している。

6 小単元の指導計画 (14時間扱い 本時11 / 14時間)

段階	本時のめあて	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準
学習問題をつかむ	①よく行く店	○日頃どんな店で買い物するかを振り返り話し合う。 ・スーパー ・コンビニ ・ショッピングセンター ・専門店	◆日頃、野菜やお肉などを家の人はどこで買い物するかインタビューするよう伝える。	【関意態】 自分たちの食生活とお店のつながりに関心を持つ。
	②③買い物調べ	○ふだんどんな物をどこで買っているか、調べて話し合う。 ○見学の視点を話し合う。	◆家で調べてきたことをグループで話し合い、地域のどの店をよく利用するかまとめさせる。	【関意態】 スーパーマーケットを見学しようとする意欲をもつ。
	④⑤見学に行つてインタビューしよう	○たくさんの方が利用するスーパーマーケットを見学する。	◆スーパーマーケットがよく利用されるわけを事前に予想させる。	【技能】 スーパーマーケットを見学し、販売の仕事の様子を観察している。
調べる	⑥スーパーマーケットのよいところ	○スーパーマーケットのよいところを話し合い、学習問題をつくる。	◆見つけたよいところを発表させ、意味を問いかけて予想させることを通して学習問題づくりにつなげる。	【思判表】 スーパーマーケットの様子をもとに学習問題づくりや予想、学習計画を考え、表現している。
	⑦⑧ 売り場を見学して	○売り場を見学して分かったことを発表する。 ○バックヤードで働く人を観察したり、店長さんにインタビューしたりして、働く人々の仕事について調べる。	◆レジ体験の感想から、バーコードのよさを感じ、売り場の工夫に結びつける。 働く人が何のために工夫をしているか考えさせる。 ◆写真の資料や教科書の資料を読み取ったりして、働く人々の仕事の内容を具体的に知る。	【技能】 スーパーマーケットを見学して、看板やシールなどの働きを調べている。 【知識】 働く人々は、消費者が買い物をしやすいように看板やシール、バーコードを使っていることを理解する。

	⑨品物はどこから	○スーパーマーケットの品物の産地を調べ、他地域とのつながりを考え、話し合う。	◆スーパーマーケットで買った物の袋やちらしなどを調べさせて、品物の産地を明らかにする。 ◆地図を活用して産地の位置を調べ、まとめさせる。	【技能】 品物の産地や旬について、看板等を読み取ったりインタビューしたりして調べている。 【知理】 スーパーマーケットでは、品物を国内外の産地から仕入れたり、仕入れる時期を考えたりしていることを理解している。
	⑩たくさんお客が来るひみつ	○たくさんのお客さんがスーパーマーケットを利用する理由を考える。	◆お客さんがお店を気に入っているところを考えさせる。 ◆お客さんの願いと店の工夫について話し合いながら結びつきを考えさせる。	【思判表】 お客さんの願いとスーパーマーケットの工夫とのつながりについて考え、店では消費者の願いに応えるサービスをしていることを話し合っている。
	⑪レジ横商品のひみつ(本時)	○コーナー以外にも商品がレジ前に並べてある理由を考える。	◆お客さんと店長の2つの立場になって、レジ横商品のよさを話し合う。	
	⑫まちの人たちとともに	○品物を売ること以外にどのような取り組みをしているかを調べ、特色を明らかにする。	◆写真資料や店長さんの話を読み取り、取り組みの特色を明らかにする。	【技能】 様々な取り組みの様子を観察して調べている。 【知識】 スーパーマーケットでは、地域や地域に住む人々のためにさまざまなことに取り組んでいることを理解している。
まとめる	⑬はたらく人の工夫をまとめる	○調べたことを振り返りながら、学習問題についてまとめ、消費者と販売に携わる人々の関連を考える。	◆これまでの学習を想起し、「働くの工夫」と「お客さんの願い」との関連を明らかにしながら、「スーパー新聞」にまとめさせる。	【思判表】 これまでの学習を振り返りながら働く人々の工夫と消費者の願いとの関連について、新聞にまとめている。 【技能】 学習問題について調べたことをもとに図や文章でまとめている。 【知識】 スーパーマーケットで働く人々は、消費者の願いに応えるために様々な工夫をしていることを理解している。
ひろげる	⑭いろいろな店	○地域にある様々な店の工夫をまとめ、発表する。	◆地域にある小売店やコンビニなどを取り上げ、店の違いや特色、工夫などに気づかせる。	【知理】 地域には特色を生かした様々な店があり、地域の人々の生活を支えていることを理解している。

7 本時の指導 (本時 11 / 14)

- (1) 目標 レジ横の商品配置について話し合うことを通して、販売者と消費者それぞれの願いに応じた販売の工夫があることを理解する。
- (2) 展開

階	学習内容と学習活動	指導者のはたらきかけ	評価
導入 8分	<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <p>2 本時の課題を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーマーケットには、たくさんの工夫がありましたね。 ・店内のマップを提示し、ガムの置き場はどこか問いかける。 ・お菓子売り場だけではないことを知らせ、疑問を投げかける。 	
展開 32分	<p>レジ横にも商品をおくのはなぜかな。</p> <p>3 レジ横がどういう所か確認する。 ・会計待ちでお客さんが並ぶ所。 ・必ず通る所。</p> <p>4 理由について考える。 ・自分なりの理由をノートに書く。 1～ 5班・・・お客さんの立場 6～10班・・・店長さんの立場</p> <p>5 グループで話し合いをする。 (4人グループ)</p> <p>6 全体で話し合う。 ・それぞれのグループで出された考えを発表し合う。 〈お客さんの立場〉 ・つい買ってしまう。 ・多めに買っておこうと思う。 ・買い忘れを防ぐことができる。 〈店長さんの立場〉 ・ついでも買ってもらえる。 ・買う予定でなかったのに、待っている間に見たら買ってもらえるかも。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・レジ横ってどんな所ですか。 ・レジ横にガムがあると、お客さんはどう思うのかな。 ・お店によいことって何だろう。 ・お客さんの立場とお店の立場に分かれる。 	
	<p>7 ゲストティチャーの店長さんの話を聞く。</p> <p>8 自分が店長さんなら、どんな商品を置くか考える。</p> <p>9 まとめをする。</p>	<p>【指導観や校内研究との関わり】 お客さんとお店側のそれぞれの立場に分かれて、レジ横にも商品を置く理由を話し合うことで、お互いの願いのもとに工夫されたことに気付くことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レジ横の商品の特徴をつかませる。 ア 値段がさほど高くないもの イ 季節の必需品 ウ 少量のもの ・児童の考えは当たっていたか、お話していただく。 ・商品と理由を発表させる。 ・両者の立場で考えたことから分かったことを自分なりの言葉で書く。 	
	<p>お店の人は、お客さんのために工夫してレジ横にも商品をおいている。 お店にとっても売り上げがふえ、両者にとってよいことだから。</p>		<p>【評価】(思判表) 販売者、消費者それぞれの願いに応じた工夫があることに気づき、ノートに書いている。(ノート) ＜規準に達しない児童への手だて＞ 「お客さん」「お店の人」「願い」「工夫」などのキーワードを使うようにさせる。</p>
終 末 5分			

〈板書計画〉

